

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

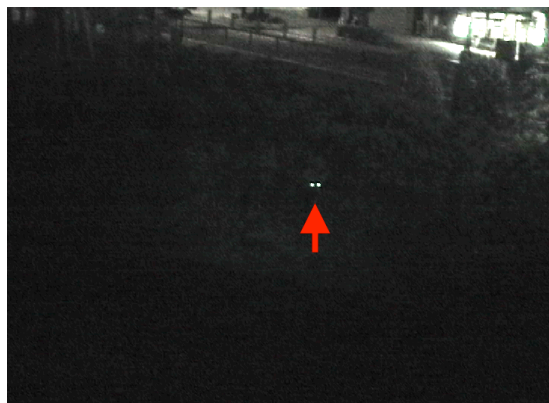
2012年6月号 通巻42号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキを尾行せよ！

ただし、調査方法としては効果的とは言えず



(写真左)矢印の光点がタヌキの眼の反射。その奥には公園の外の道路が見える。  
(写真右)左とは別の画像。明るさを調整してある。元画像は眼の反射しかわからないほど暗い。  
(2008年、東京都23区内で撮影)

タヌキの調査方法というと、どのようなものを皆様は考えるでしょうか。タヌキを尾行する方法は、タヌキの行動をずっと監視できるのでとても良さそうなものに思えます。ところが、現実にはそううまくはいかないのです。

### タヌキ尾行調査の障害

まず住宅地でタヌキを追跡する場合を考えてみましょう。タヌキは道路をトコトコ歩いていきます。しかし、すぐに民家や企業の敷地に入ってしまうでしょう。それ以上の追跡はできなくなり、尾行は終了です。住民に事情を説明して敷地に入れたとしても、その間にタヌキはまた別の場所へ移動しているでしょう。

では、大きな公園の場合はどうでしょうか。ここなら塀などの障害物が少ないので尾行しやすそうです。ところが、そういう場所は照明がほとんど無いため、タヌキを視認することがかなり困難になります。懐中電灯を持っていたとしても難しいで

す。この困難は山林などでの追跡でも同じです。また、タヌキは藪の中や側溝の中に入って行くかもしれません。そうなると尾行はできなくなります。

つまり、どこで尾行調査をしようとも実行はかなり難しいことなのです。

### 実際に尾行してみたら

私自身の尾行調査の経験を紹介します。それは2008年のこと、場所は東京都23区内のある公園でした。ちょっとびっくりするような場所なので、その詳細は伏せることにします。当時の記録によると、追跡時間は約70分。私が歩いた距離は約500mほどでした。500mということかなりの距離ですが、公園の中をあちこち動き回っていただけです。この尾行の時、まず問題だったのが上にも書いた視認の難しさでした。暗い場所ではタヌキを確認しにくいため、どうしてもタヌキに接近しなければなりません。そのため別の問題

も発生しました。それは、タヌキがこちらを気にすることでした。タヌキは明らかにこちらをちらちらと見ていました。途中で大きなガを捕まえましたですがすぐにその場を離れました。落ちていて食事できないようなのです。この経験から、人間が近くにはタヌキは普段通りの行動ができない、と私は考えています。移動距離が長くなったのも人間がいたからで、普通ならもっとゆっくりと移動したでしょう。残念ながら尾行は有効な調査方法とは言えません。

尾行に代わる調査方法としては、タヌキに電波発信器やGPS発信器を装着する方法があります。ただ、機械の調達や金額的なことから簡単にできる方法ではありません。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>